

2. リデュース、リユースの大切さ

次世代へのバトンタッチとして、「循環型社会」の実現に向けた取り組みが重要です。そのためには、「3R」の理解と、行政・事業者・市民の連携と協働による実践が必要となります。しかし、その実現のための具体策は十分とは言えません。

わたしたちは、「もったいない」の精神を共有化し、しっかりと意志をもって、一步ずつ、新たな試みを実践していかなければいけません。それが今、求められています。

環境負荷の少ない社会をめざして

しかし、3Rではリサイクルに比べ、製品を作る時に工夫しごみの量を減らす、廃棄につながるような余分なものを買わない(=リデュース)、一度使ったものをくり返し使用する(=リユース)といった活動が十分浸透していません。

発生抑制や元からゴミを出さず、余分にものを買わないライフスタイルが必要になってきます。

今後はリサイクルのようにリデュース、リユースも前進させることで、より環境負荷の少ない循環型社会を作っていく必要があります。

(※注) ただし、生産-消費-廃棄の過程で、リユースするよりリサイクルの方が環境負荷が低い場合がありますが、その場合は、3Rの優先順位によらないことを考慮する必要があります。

作りすぎない、消費しすぎないという努力をして、それでも出てしまった廃棄物はリサイクルするという認識が大切です。

キーワードはライフスタイルの変革

では、どのような視点でリデュース、リユースの活動を具体的に進めればよいのでしょうか。

キーワードは、「ライフスタイルの変革」です。利便

性や値段だけでなく、今必要なものを必要な分だけを購入する。使えるものはできるだけ長く使う。長期間使えるものを選択する。不要になったものは地域で譲り合うなど、無駄を排除し、つかえるものは長く使うという意識、つまり「ライフスタイルの変革」が重要なのです。

例えば、ごみになりにくい包装の商品や再使用できる容器で販売されている商品を優先して購入することが、ごみを減らすように頑張っている企業を応援することになり、持続可能な「循環型社会」の形成に大きな影響を与えるのです。

行政と事業者の動きも大切

しかし、消費者だけでは解決できない問題もあります。リデュース、リユースに配慮した製品が売場にわかりやすく展開されていなければなりません。

事業者は、リデュース、リユースに配慮した製品を企画、製造、販売するとともに、そうした環境情報をわかりやすく表示する努力が求められます。行政は、消費者にリデュース、リユース製品の積極的な購入を働きかけたり、事業者にリデュース、リユース製品の企画、製造の支援を行う、さらに自ら率先して、リデュース、リユース製品をグリーン調達として優先的に使用することが求められます。行政は、事業者にリデュース・リユース製品の企画、製造の支援や促進策を行う。この3者が、「循環型社会の実現」という共通の目標を共有し、それに向けて着実に努力することではじめて現在の社会の在り方を見直していくことができます。